

佐世保市上下水道事業経営検討委員会 経営戦略【第2回】 議事要旨

日時：令和7年4月15日（火）9時30分～12時00分

場所：水道局4F研修室

出席委員 8名（1名欠席）

議題：

- ① 投資計画の基本的な考え方について
- ② 投資計画の目標値等について
- ③ 主な事業について
- ④ まとめ

議事要旨

① 投資計画の基本的な考え方について

水道供給の持続を図るため老朽施設の更新をしっかりと進めていくことを前提に、将来の投資額を可能な限り削減していくこと、投資額の削減は今後の都市計画や各種政策と整合を図ったうえで進めていくこと等について説明し、以下のような質疑応答や意見がありました。

- ・管路リスクが高まることによって、これまで以上に修繕対応に人手（職員数）が必要となるのではないか？

⇒【事務局回答】

・モニタリングの強化等によって、職員一人当たりの作業の効率を高めていくことで対応可能と考えている。その上で、なお人手が足りないような状況となれば、その時点で検討することになる。

② 投資計画の目標値等について

向こう10年間の投資計画では、水源確保は早期に行い老朽ダム対策の着手段階に至ること、施設数削減については基盤整備から進めていく必要があるため当初10年では数が大きく減らないこと、リスクマネジメントについては現在の体制で対応困難となる次の10年に向けてモニタリングを強化すること等を説明し、投資計画の目標値を提示し、以下のような質疑応答がありました。

・長期目標の中で、浄水場を最終的に4箇所へ減らすと目標値を設定しているが、具体的にどこか？

⇒【事務局回答】

- ・山の田、広田、宇久地区1箇所と北部エリア1箇所の計4箇所である。
- ・そのうち北部エリアについては、今後の人口動態や都市開発がどのように進むか等の状況を見て、北部エリアに浄水拠点を設け、リスクの分散を図る必要が生じた場合に備えた将来の選択肢として余地を残しているもの。

・漏水量の維持という目標値について、今後10年の修繕件数が現状の500件から640件に増えれば、漏水量は増えるのではないかな？

⇒【事務局回答】

- ・これまでに減圧対策や配水池の遠方監視に基づく夜間最小流量調査等で対応力を高めてきた。その結果、直近5年間で700件の修繕件数に対して漏水量を維持できている。

③ 主な事業について

向こう10年間で予定している主要事業について、いずれも先送りや圧縮の余裕がない事業であることを説明し、以下のような質疑応答や意見がありました。

・北部エリアに新たな浄水場を建設する構想もあるとのことであるが、その場合、水源はどこからもってくるのかな？

⇒【事務局回答】

- ・基本的に北部エリアの既存の水源（小規模水源）を使用することになる。

・常時監視地点の一期整備後、二期整備に向けた検証に3年かけるとのことであるが、検証に3年も必要なのかな？

⇒【事務局回答】

- ・はじめて管路地点での常時監視となるため、過去のデータとの比較検証ができないことから、観測データが直ちに異常なものであるかどうかの判断ができない。
- ・数年間、データをとって、実際に破裂等が生じた際のデータの動きなどを検証する必要があるため、一定の年数をかける必要がある。

- ・常時監視するためにブロック化と合わせて1箇所あたり5千万円の費用がかかるということであるが、監視箇所が多くなれば、莫大な投資を必要とするのではないか？

⇒【事務局回答】

- ・将来の投資額を削減するためにライフサイクルの延伸を図ろうとしているものであるため、それに伴うモニタリングに莫大な投資を行う考えは持っていない。
- ・管網ブロック化の範囲を小さくするほど監視の精度が高まる一方でブロック数が増えるため投資が大きくなり、ブロックを大きくするとその逆となる。費用対効果を含めた最適なブロックを見極めたいと考えている。

④ まとめ

先送り等の余地がない最小限度の投資であることについて説明し、委員会からは、次回の財政計画の説明を受けた上で、必要に応じて再度投資の議論を行うことを前提に投資計画を妥当とする意見がまとめられました。